

約250人が最新補修技術学ぶ

橋梁の新技术フォーラム

H C M A

広島県コンクリートメンテナンズ協会(徳納剛会長)は1日、「橋梁の維持管理に関する新技术フォーラム」を広島市中区の広島国際会議場で開き、橋梁補修関連の技術者など約250人が参加。橋梁の健康寿命を延ばすための最新の補修技術や、塗膜の飛散処理技術などの講演に耳を傾けた。



徳納会長



今年も全国12会場で開催した同会が、コンクリート橋、鋼橋に特化したフォーラムとして企画したもので、土木学会認定CPDプログラムの(3・7単位)の対象。徳納会長(福徳技研)は主催者あいさつで広島発の技術として数多くの失敗を繰り返しながら全国展開に至った経緯を紹介したのち、「近年はあらゆる分野で脱炭素社会への取組みが注目されており、橋梁補修においても適切なコンクリートの補修、鋼橋の塗替えによって健康寿命を延ばすことで、CO₂排出量の多い撤去・新設工事を減らすことが重要だ」と強調。「本日は健康寿命を延ばすための最新技術を紹介しますが、適切な補修・塗替えを行うことはわれわれ技術者の務め。講演内容が皆様の光明になることを確信している」と述べた。

フォーラムでは、休憩を挟みながら6人の講師が登場。コンクリートメンテナンズ協会の江良和徳技術委員長は、「コンクリート構造物の健康寿命を延ばすための維持管理の考え方」と題し、構造物劣化のメカニズムや補修工法選定の考え方を説いたほか、亜硝酸リチウムを活用した事例について詳しく説明。

このほか、アイゾールテクニカの田村悟士専務は、「小規模橋梁に対する床版防水工の動向と開発事例」、プラスチック技術協会の小寺健史会長は、「インフラメンテナンスにおける鋼橋の課題 素地調整の重要性」、吉原鉄工所の吉原慎二代表は、「素地調整程度1種『マルチメディア・ブラスト工法』についてのご紹介」をテーマにそれぞれ講演し、大塚刷毛製造の講師による「インフラ整備の現状と課題」も披露された。

現地測量一式、道路詳細設計(A) L2・8km、ダイヤモンド型IC詳細は3794万円、予定度の開校を予定してお

江統合中学校(防地町)とともに、校舎の新築を計画している(仮称)久

ATER-JET 工法

お問合せフリーダイヤル

0120-76-3610